

2012(平成24)年度 事業計画書

2012年5月1日～2013年4月30日

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

INTERNATIONAL CHILDREN'S
ACTION NETWORK

Not "for" the People, but 'with' the People

アイキャン概要

| | | |
|------------------------|--|--|
| <p>私たちが解決したい課題</p> | <p>現在に至っても、紛争や「貧困」などの暴力に脅かされ、可能性を開花することができない状況に置かれている子どもたちが世界中にいます。特に紛争地の子どもたちやごみ処分場の子どもたち、先住民族の子どもたち、路上の子どもたち、薬物依存の子どもたち、海外出稼ぎ労働者の子どもたちなど「危機的状況に置かれている子どもたち」は、社会の中でも阻害され、享受すべき権利も守られておらず、劣悪な環境に置かれています。</p> | <p>世界の中には、様々な課題に対して、そして平和な社会を創るにあたって、市民一人一人が行動を望んでいても、それを阻む様々な要因があります。人々が地域に根差して地球規模の課題に取り組むことができるスペースは、依然として限られています。</p> |
| <p>私たちが目指す理想の社会</p> | <p>子どもたちが紛争や「貧困」などの暴力に脅かされることのない社会</p> | <p>社会問題の解決、理想の社会に向けて、行動する人や団体、地域で溢れる社会</p> |
| <p>アイキャンの活動目的</p> | <p>「『できること』を実践する人(=アイキャンな人)」を増やし、その一人ひとりの「できること」を持ち寄ることによって、世界中の子どもたちが享受できる平和な社会を築くこと。</p> | |
| <p>アイキャンの2012年活動</p> | <p>I、「できること」を実践する人(=アイキャンな人)を増やすプログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ジェネラルサントスの子どもたち 2、紛争の影響を受けた子どもたち 3、路上の子どもたち 4、先住民族ブラアンの子もたち 5、外国にルーツを持つ在日の子どもたち 6、ごみ処分場周辺に住む子どもたち 7、災害の影響を受けた子どもたち 8、子どもの参加を促進する事業 | <p>II、「できること(ICAN)」を増やすプログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、国際理解教育事業 2、語学教室事業 3、スタディツアー・研修事業 4、フェアトレード販売事業 5、フェアトレード啓発事業 6、NGO相談員事業 7、インターン育成事業 |
| <p>アイキャンの2012年運営体制</p> | <p>運営上の重点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、会員・寄付者、協力者の増加:より多くの人「できること」によって成り立つ団体へと成長する。 2、各開発プロジェクトの強化:事業評価を順次行い、事業の質を向上させる。 <p>組織体制</p> <pre> graph TD GM[総会(会員約500名)] --- BO[理事会(理事5名)] IA[内部監査(監事2名)] --- BO BO --- ED[事務局長] ED --- JO[日本事務局] ED --- MO[マニラ事務所] MO --- EA[外部監査] JO --- GB[宮城出張所] MO --- MN1[ミンダナオ北部事務所] MO --- MN2[ミンダナオ中部事務所] MO --- MN3[ミンダナオ南部事務所] </pre> <ol style="list-style-type: none"> 1、日本事務局:日本愛知県名古屋市 2、宮城出張所:日本宮城県東松島市 3、マニラ事務所:フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市 4、ミンダナオ北部事務所:フィリピン共和国ミンダナオ島カガヤンデオロ市 5、ミンダナオ中部事務所:フィリピン共和国ミンダナオ島コタバト市 5、ミンダナオ南部事務所:フィリピン共和国ミンダナオ島ジェネラル・サントス市 | |

1、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなうプログラム

A、ジェネラル・サントスの子どもたち

2012年の注目

- 奨学生との面談の時間を増やします。

これによって



子どもたちの通学の継続をより確かなものとしします。

(1) 事業背景

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラル・サントス市は、人口約54万人、世帯数約11万の地方都市です。ツナやパイナップル等の魚産物・農産物が豊かに収穫できますが、大農場や工場を持つ握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人びとが最低限の生活状況の中にいます。公立学校にさえ子どもを通わせ続けることができず、経済的理由で、落第せざるを得ない子どもたちが少なくありません。また、多民族地域であり相互理解はあまり進んでいません。このような状況に対して、アイキャンは、主に高校卒業までを目指した通学補助や、多文化間の相互理解促進をすすめる活動を行っています。

(2) 実施事務所

ミンダナオ南部事務所(ジェネラル・サントス市)

(3) 事業のパートナー

ジェネラル・サントス市在住の28名の子ども(高校生25名、大学生3名)

(4) 活動

1) 通学補助

学用品(ノート各種、鉛筆、ペン、消しゴムなど)、制服、傘、鞆、靴など通学に必要な備品をひとりひとりに配布し、また学費、通学交通費、教材費、卒業経費等を提供します。

2) 緊急補助

奨学生の入院ケース、また保護者死亡のケースの際、経費を補助します。

3) カウンセリング・相談

教師、保護者と協力して、子どもが継続して通学できるようカウンセリングや勉強会を行います。子どもたち同士が抱えている問題を共有する場を持ち、通学を阻む問題の早期発見に努めます。

4) 子ども集会の開催

年に1度子どもたちと保護者を集めて、成績優秀者の表彰や、子どもの権利について理解を促進する場を持ちます。保護者に事業についての理解と協力を求めます。

5) プログレスレポートの作成

プログレスレポートを作成し、パートナーさんへ送付します。

B、紛争の影響を受けた子どもたち

2012年の注目

- 子どもたちが勉強できるよう14の教室を整備します。

これによって



毎年500人以上の子どもの教育環境が改善します。

(1) 事業背景

ミンダナオ島北コタバト州ピキット周辺では、長年の紛争の影響で約60%の住民が住みなれた土地を追われ、学校等社会インフラが荒廃し、幾度となく人々の生活基盤が揺るがされてきました。現在も国軍と反政府軍の衝突、親戚関係にあるグループ(氏)の土地をめぐる争い、そして犯罪組織も活発な状態が続いています。アイキャンは、学校の整備や平和へ向けた研修を通じて、この地域の平和を促進する学校、「平和の学校」づくりを進めています。

(2) 実施事務所

ミンダナオ中部事務所(コタバト市)

(3) 事業のパートナー

ピキットの小学校・高校の教師や子どもたち、地域リーダーたち約1,000名

(4) 活動

1) 教育環境整備

① 校舎の建設・改修

ダトゥ・エンバク・マガンシン・メモリアル高校で校舎1棟3教室の新築、プロド小学校で2教室の校舎を新築、バラバック小学校で2教室の改築、バラティカン小学校で6教室の改築を行うとともに、各学校の教育設備を整えます。

② 学用品の提供

7つの村の小学生に学用品を提供します。

2) 学校における平和教育活動

① 「平和の学校(School of Peace)」準備活動

② 「平和の学校(School of Peace)」研修

地域の学校を中核に、子ども、先生、地域のリーダーに平和教育研修を実施し、地域での「平和の文化」の定着と平和活動を担う「平和の学校」をつくります。

3) ミンダナオ子ども議会

ミンダナオの様々な民族の子どもが将来のミンダナオについて話し合う「ミンダナオ子ども議会」を実施し、その報告書を作成します。

4) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し、パートナーさんへ送付します。

C、路上の子どもたち

2012年の注目

- 路上の子どもたちの経験を演劇にします。

これによって



路上の子どもたちの声を広社会に届けます。

(1) 事業背景

フィリピンでは、約25万人の子どもたちが路上での生活を余儀なくされています。子どもたちは物乞いや物売り、廃品回収、性産業等により生計を立て、様々な危険のなか暮しています。空腹を紛らわせるためにシンナーを吸引し、身を守るためにギャングの一員となる場合もあります。アイキャンは、路上の子どもたちが特に多いマニラの5ヶ所において子どもの権利である「育つ権利」「参加する権利」「生きる権利」「守られる権利」が守られた環境を作るために活動を行います。

(2) 実施事務所

マニラ事務所

(3) 事業のパートナー

マニラの路上にいる子ども・青年たちとその親たち約300名、かつて路上生活をしていた子ども4名

(4) 活動

1) 「育つ権利」を守る活動

路上教育、代替学習制度(ALS)による教育、通学補助を実施します。

2) 「参加する権利」を推進する活動

社会起業として、子どもたちによるパン屋営業を開始します。また路上新聞を発行して子どもたちの声を社会に届けます。

3) 「生きる権利」を守る活動

緊急診療活動、栄養改善活動、保健教育を行います。

4) 「守られる権利」を推進する活動

ドロップインセンターを開設し、子どもの緊急事態に対応できるようにします。常時カウンセリングを実施し、家族との和解の仲介、施設への紹介を行い、子どもたちが安心して暮らせる環境を確保します。また出生登録の補助や、病気やケガに対する治療補助を行います。

5) 子どもの権利についてのアドボカシー

BCPC(バランガイ子ども保護機関)の組織化、路上の子ども親への権利研修を行います。

6) 子どもたち若者たちの組織化

子どもたちとの会議を重ね、組織化研修を実施します。

7) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し、パートナーさんへ送付します。

D、先住民族ブラアンの子どもたち

2012年の注目

- 先住民族の学校の児童会強化を行います。

これによって



学校運営における「子どもの参加」を促進します。

(1) 事業背景

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外の山岳地帯の村に住む先住民族ブラアンは、独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼きなどを生業としています。人々は、1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされており、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなった今、食にこと欠く家族も多いのが現状です。病気になっても村には医師は常駐しておらず、簡単に治療できるはずの病気で命を落とすこともあります。学校設備も不備であり、親が安定した収入源を持たず経済的な理由で通学を辞める子どもが少なくありません。

これに対し、アイキャンはブラアン地域の生活向上を目的として、教育・生計向上・医療の事業を実施しています。

(2) 実施事務所

ミンダナオ南部事務所(ジェネラル・サントス市)

(3) 事業のパートナー

サンホセ村の子どもや保護者、教師等300名。

(4) 活動

1) 小学校校舎の建設

サンホセ村のシャトル小学校の校舎1棟2教室を新築し、約140人の児童の教育環境を改善します。

2) 児童会強化と教員研修

サンホセ地区全9小学校において、児童会の組織化とその強化をすすめ、同時にブラアンの文化に適した教育を行うための教員研修を実施します。

3) 生計向上活動

伝統工芸の技術を高めて収入に繋げられるよう、サンホセ村の母親たち約20名の訓練を行います。

4) 保健教育

サンホセ村の中で、医療サービスにアクセスしにくい山奥の地区の住民を対象とした保健教育を実施します。

5) 学用品の提供とニーズ調査

ジェネラル・サントス市の先住民族の子どもたちに、学用品を提供するとともに、ニーズ調査を行います。

6) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し、パートナーさんへ送付します。

E、ごみ処分場周辺に住む子どもたち

2012年の注目

- 協同組合の運営の安定化を目指します。

これによって、



継続的に医療サービスが提供できる体制が整います。

(1) 事業背景

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があります。ここには、ごみ処分場でリサイクルできる資源を回収し販売することで生計をたてている人が約2,000人いますが、必要最低限の暮らしを保つのも困難な状態です。また、劣悪な生活環境によって、住民は様々な健康被害を受けていますが、適切な医療へのアクセスが限られています。これに対して、アイキャンは処分場に近いケアセンターを拠点として、医療や生計向上の活動を実施するとともに、住民主体で実施できるよう研修を行ってきました。2010年には現地の人々によって作られた協同組合PICOが診療等の活動を受け継ぎ、前年度からアイキャンはその協同組合の運営基盤の強化に努めてきました。

(2) 実施事務所

マニラ事務所

(3) 事業のパートナー

パヤタスごみ処分場周辺に住む約5000名

(4) 活動

1) 保健・医療サービスの提供

① 定期診療（毎週2回）など協同組合が実施する保健活動が適切に行われているかをモニタリングします。

② 次世代地域保健員を50名育成するために、地域の青年たちに保健の研修を実施します。

③ 次世代地域保健員による子どもたち向けの保健教育を地域で45回実施します。

2) 協同組合強化・コンサルティング活動

組合員を対象にマネジメント強化研修を実施するとともに、運営強化のための改善提案を行います。

3) 生計向上活動

① 地域の青年たち100名の技術訓練校での訓練に必要な授業料、通学経費を提供します。

② 技術訓練校を卒業した青年たちへの就職活動を補助します。

4) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し、パートナーさんへ送付します。

F、災害の影響を受けた子どもたち

～東日本大震災～

2012年の注目

- 子どもたちが10年後の理想の地域を描きます。

これによって、



子どもの視点による地域のビジョンが共有されます。

(1) 事業背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、未曾有の被害を生み出しました。宮城県東松島市は本震災によって、町の全世帯の約45%である6,758世帯が水没し、死者・行方不明者は町の全人口の2.8%にあたる1,231名以上に及びました。現在、東松島市内各地区において、まちづくり計画策定の議論が進められていますが、その多くは、大人が中心となっており、子どもたちが思い描く将来の理想の地域について表現する機会は限られています。また、壊滅的な被害を受けた地区に住んでいた子どもたちは、様々な避難所・先に分かれて住んでいます。集落全体の移転による地域への復帰が5年後とも言われる中、故郷と子どもたちの関係を繋ぎとめる活動は十分ではありません。

(2) 実施事務所

日本事務局、宮城出張所

(3) 事業のパートナー

宮城県東松島市の子どもたち約2,000名

(4) 活動

1) 「10年後の僕たち、私たちの東松島」絵画大会

「10年後の僕たち、私たちの東松島」と題した東松島市内の小中学生約1,000名が参加する絵画大会を実施し、市内全域の仮設住宅や市内全図書館・図書施設において展示会を行います。また1万部製本、配布するとともに、特設HPを作成し、広く社会に共有します。

2) 「野蒜子ども新聞」の発行とリーダーシップ研修の実施

野蒜(のびる)地区は、東松島市内で最も被害が大きかった地域の1つで、多くの子どもたちは、各地の避難先に分かれて生活を送っています。子どもたちがリーダーシップ研修を通じて、故郷への想いが詰まった地区の情報誌を年4回作成し、各避難先の子どもたち約1,000名に配布します。

3) 仮設住宅における「カフェ」活動と子どものアクションプランの作成

東松島市内の仮設住宅において、子どもが中心の「カフェ」活動を開催し、子どもたちの「しゃべり場」を提供します。またカフェ活動を通じて、子どもたちが自身で仮設住宅の生活環境を向上するために活動を計画し、実施、評価します。

～ミンダナオ台風災害～

2012年の注目

- 職員を雇用し、ミンダナオ北部に事務所を設立します。
これによって、
より効率的に事業運営を行うことができます。

(1) 事業背景

2011年12月16日の夜から17日未明にかけてフィリピンミンダナオ島北部に上陸した台風21号(フィリピン名:センドン)は、ミンダナオ島の5州とネグロス島やセブ島、ボホール島の計32都市を襲い、その被害は、死者・行方不明者数約2,500名、被災者数60万人以上に及びました。特にミンダナオ島北部にあるカガヤンデオロ市及びイリガン市の被害は深刻で、17日朝までの12時間に、1ヶ月間の平均降水量に匹敵する180ミリの雨が降り、洪水、鉄砲水、地滑りが発生、甚大な被害となりました。

(2) 実施事務所

ミンダナオ北部事務所(カガヤンデオロ市)

(3) 事業のパートナー

台風21号による被災者 約4,000名

(4) 活動

1) 保健委員会の組織強化と保健研修の実施

42の被災者住民組織(survivors collectives)において、基礎的な保健の知識を持つ地域保健ボランティア(Community Health Volunteers)を育て、保健委員会を設立強化する研修を実施します。研修のテーマは、基礎的な保健の知識、地域保健ボランティアの役割と責任、病気予防のために地域でできること、基礎的な病気やけがへの対応方法の習得、トラウマの除去のためのピアカウンセリング等です。

2) 保健医療キットの提供

地域の保健機関が機能していない中、地域で基礎的な病気やけがへの応急措置ができるように、保健医療キットを全42地域に提供します。

3) 住民組織のネットワーク強化

住民がより協調行動を取ることができるよう、広範囲に広がっている住民組織(survivors collectives)の横のつながりを強化することを目的に、3回のネットワーク会議を実施します。

4) 事務所設置とニーズ調査

ミンダナオ北部事務所をカガヤンデオロ市に設置し、専従職員を配置することで、当事業を効率的に実施するとともに、更なるニーズを把握することで、2013年以降の活動の方向性を見極めていきます。

G、外国にルーツを持つ子どもたち

2012年の注目

- 多文化勉強会ボランティアグループを作ります
これによって、
事業の持続的な運営体制を整えます。

(1) 事業背景

愛知県内の外国人登録者数は全国で3位となっています。また、それに加え、登録していない、日本国籍を持ちつつも日本以外にルーツを持つ子どもたちはその何倍とも言われています。外国にルーツを持つ子どもたちの多くは、小学校高学年から中学校にかけて本人の日本語力と学業上必要な日本語力の間に顕著な差ができてはじめ、これが低い学力として現れます。この結果、子どもたちの中には進学を諦めざるを得ず、様々な要因が結びついた結果として、母親を見下し、責めることにより家庭の崩壊が起こったり、子どもにアイデンティティ障がいが発生するケースも多くあります。

アイキャンは日本にいる外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境を向上させ、家族の地域社会への参加を促すために、翻訳サービスや勉強会等を実施してきました。前年度までにボランティアコーディネーターによる運営が可能となりました。

(2) 実施事務所

日本事務局

(3) 事業のパートナー

日本に住む外国にルーツを持つ子どもたち250名

(4) 活動

1) 啓発活動

外国にルーツを持つ子どもたちが置かれている状況の理解促進をするため、勉強会を8回実施します。また、その勉強会を運営していくボランティアグループを作ります。

2) 翻訳活動

学校が保護者宛に発行するプリントや地域の回覧板等を、全国のアイキャン翻訳ボランティアが多言語で翻訳することで、外国にルーツを持つ子どもたちの親が、子どもの教育に携われるようにします。特に今年は、広報活動を活発に行い、翻訳件数の増加に注力します。

3) 報告書の作成

1年間の学びを報告書にまとめ、教育機関やNPO、一般市民等に配布します。

4) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し、パートナーさんへ送付します。

H、子どもの参加を促進する事業

2012年の注目

- 各地域での活動についてニュースレターを作成します。これによって、子どもたちの横のつながりを強めます。

(1) 事業背景

アイキャンはフィリピンにおいてこれまで子どもたちの保健や教育の向上に取り組み、そして親たちの収入を増やす活動を行ってきました。その中で、なぜ子どもたちが現在も危機的な状態に置かれているのかと考えたとき、社会に欠如しているのは、「子どもたちの声」であると考えようになりました。子どもたちは夢をみる力も、夢をかなえる力も持っています。様々な課題を自分たちで解決していく力も持っています。この事業が目指すものは、まず「危機的状況にある子どもたち」自身が自分たちの置かれている現状を声に出し、他の境遇にある子どもたちと共有すること、そして、自らの活動計画をつくり、子どもたち自身が社会を変えていくことです。

(2) 実施事務所

在フィリピン全事務所

(3) 事業のパートナー

路上の子どもたち、紛争地の子どもたち、先住民族の子どもたち、身体的障がいを持った子どもたち、親が海外出稼ぎ労働者の子どもたち等「危機的状況にある子どもたち」約300名

(4) 活動

1) 各地域での子どもたちの活動補佐

前年度に子ども議会で作成した行動計画をもとに、フィリピン各地で、「危機的状況にある子どもたち」が、地域の課題に対して活動を実践するのを補佐します。

2) 「子ども議会2012」開催

今年度も継続して、「子ども議会」を開催します。「危機的状況にある子どもたち」の代表者たち約20名が一堂に会し、それぞれの「理想」と「課題」を共有し、行動計画を作成する場となります。子どもたちは、自分たちの計画に基づいて、「子ども議会」終了後、それぞれのコミュニティで自分たちの課題を解決するために、計画の実行に取り組みます。議会の報告書を英語と日本語で製本し、配布します。

3) フィリピン国レベルの子どもの参加促進

NGO、政府機関、国連機関と連携し、「子どもの参加」を促進する活動に加わります。

2、「できること」を増やすプログラム

A、国際理解教育(開発教育)事業

2012年の注目

- 中学校や高校との連携事例を増やしていきます。これによって、社会問題の解決に取り組む若者を増やしていきます。

(1) 事業背景

情報社会を迎え、世界中のどこでも情報を容易に得やすくなりました。けれども危機的状況に置かれている子どもたちの「こえ」が社会に伝わる機会は、いまだ限られています。

アイキャンは、日本に住む人々とフィリピンに住む人々の経験をお互いに共有することによって、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に基づいて社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材を育成しています。

(2) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

(3) 事業のパートナー

一般市民約5,000名

(4) 活動

1) 学校での授業・講義の実施

フィリピン各地の事業地の経験をもとに、小学校から大学で授業をおこなうとともに、参加者が一歩踏み出せるような活動を提案します。

2) 開発教育講座やイベント等実施、参加

フィリピン各地の事業地の経験をもとに、自主イベント企画を実施するとともに、他団体主催のイベントに参加し、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

3) 事務所訪問受け入れ

小中高生や大学生・一般の方の訪問を受け入れ、事務所にて活動紹介を行い、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

4) 絵手紙大会(トウライブプロジェクト)

愛知県内中学生とフィリピンの子どもたちとの交流を促進することを目的に、絵手紙の交流を行います。今年のテーマは、地域の先生方と話し合い、「私が大切にしている時間」となりました。過去最大の参加校を目指します。

5) 国際理解海外研修・事業地訪問の受け入れ

高校と大学生の国際理解海外研修を実施し、地球的規模の課題解決に貢献する人材を育成します。またガイドラインに準じた形での事業地訪問の受け入れを通じて、開発事業の重要性を伝えていきます。

B、語学教室事業(スマイルチケット)

2012年の注目

- 語学教室の広報と運営体制を強化します。

これによって、



身近な「できること」を実践する人の数を増やします。

(1) 事業背景

インターネットが発達し、世界の情報が日々目に入る時代になるとともに、インターネットにアクセスできる世界中の人と交流が容易にできる時代となりました。社会問題の解決に向けて活動している世界中の人たちと、行動をとるために、語学力は、最も必要なコミュニケーション手段の1つとなっています。しかし日本では、一般的に外国語の語学力は低く、これが地球規模での連帯を阻害している面がありました。

アイキャンでは、地球規模の課題の理解促進と一般市民の語学力を向上させることを目的に、2012年1月より英語とフィリピン語の語学教室(SMILE Ticket)を開校しています。フィリピン語の学習を通じて、フィリピンの文化や政治、社会状況を伝え、アイキャンの事業地の子どもや日本に住むフィリピンの方の生活背景の理解促進にも貢献しています。

(2) 実施事務所

日本事務局

(3) 事業のパートナー

一般市民約100名

(4) 活動

1) 語学教室(SMILE Ticket)の運営

引き続き、英語とフィリピン語の教室の運営を3つの語学レベルで行います。広報活動を強化し、参加者数と授業数を増やすとともに、外国人講師の登録数を増加させ、多様性のある授業を目指します。また、事務所内の写真展や多文化共生の活動、海外へのスタディツアーや国内ボランティアとの連動性を意識し、生徒に対して複合的に「できること」を提案していきます。

2) イベントの実施

語学教室で学ぶ生徒と教師の両方が参加するイベントを積極的に提案し、インフォーマルに異文化を学ぶ機会を提供していきます。

C、スタディツアー・研修事業

2012年の注目

- 今年度は6回のスタディツアーを実施します。

これによって、



フィリピンと日本の間の相互理解を促進します。

(1) 事業背景

現在、世界では南の国と北の国との間に大きな経済格差があり、その解決に多くの国や諸機関が取り組んでいます。その格差は広がる一方で、より多くの人々の解決に向けてのコミットメントが求められています。アイキャンでは、アイキャンの活動を広く知ってもらうだけでなく、フィリピンの困窮の中にある人々の現状を伝えるべく、社会開発研修やスタディツアーを実施してきました。これによって、開発に関心のある人々に学びの場を提供し、ともによりよい社会づくりを担う人材を育成しています。一方的な学びにならないように、事業地の子どもたちと日本からの参加者の両方にとって学びにつながるような活動内容を提供しています。

(2) 実施事務所

マニラ事務所

(3) 事業のパートナー

一般市民約60名

(4) 活動

1) ICANスタディツアー

アイキャンの事業地の住民や子どもたちとの交流を通して、相互理解を促進する4泊5日ツアーを、8・9月に3回、12月に1回、2・3月に2回、年に計6回を予定しています。パヤタスゴミ処分場の住民とともに実施している事業やマニラ首都圏の路上の子どもたちの事業を見学する他、子どもたちとの交流をメインにした内容です。

基本的内容:4泊5日

1日目:集合、オリエンテーション等

2日目:ごみ処分場の子どもたちとの交流

3日目:路上の子どもたちとの交流

4日目:子どもたちとの遠足、買い物等


5日目:解散

2) 帰国後の報告会

参加者による報告会を開催し、帰国後の参加者同士のつながりを強化するとともに、参加者以外の方にも、参加者の声からアイキャンの活動やそこに住む人々について理解を深めていただく機会を作ります。

D、フェアトレード販売事業

2012年の注目

- より一層の財政構造改善を行います。
これによって、
より持続的な事業運営が可能になります。

(1) 事業背景

アイキャンのパヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード団体(SPNP:パヤタスの生計向上のためにがんばる母親たち)をはじめとするフェアトレード生産者団体の運営を支え、生産者のエンパワメントと収入向上を目的として、実施しています。

(2) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

(3) 事業のパートナー

フィリピンの生産者団体、及び日本の一般市民約1,000名

(4) 活動

1) SPNPの団体運営強化

SPNP定期ミーティングに参加し、アドバイザー役として団体が抱える課題についての解決策をともに考えます。また、生産者たちに購買者である日本の一般市民(パートナー)の声を届けていきます。

2) 商品開発と仕入れ

去年一年間の購買傾向を分析し、SPNPと生産の方向性について話し合いを持つとともに、マーケティングを適切に行い、顧客の要望に合った商品を開発します。SPNPや他団体のフェアトレード製品を仕入れます。

3) 販売


日本とフィリピンで、イベント、バザー、学園祭、事務所、ホームページ、またフェアトレードショップ等を通じてフェアトレード製品を販売します。

4) 啓蒙活動

日本やフィリピンで、フェアトレード製品の購買を通して、顧客に社会問題の理解促進をすすめます。生産者の置かれた環境と自分が置かれた環境を比べ、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に基づいて、社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材を育成します。

E、フェアトレード啓発事業

2012年の注目

- 海外の生産者と日本の生産者・消費者をつなぎます。
これによって、
東海地域のフェアトレードを活性化します。

(1) 事業背景

「お買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード(公正な貿易)運動の広がりは、日本全体では盛り上がりを見せてつちも、東海地域においては依然として限られています。その為、市民は世界中から届いた商品に囲まれて生活を送りつつも、「南」の生産者の声は届かず、「南」「北」の経済格差が固定化されてしまっています。このような状態に個別に対応するのは限界があり、地域のフェアトレード関係者や有志が一丸となって、東海地域のフェアトレードを取り巻く環境を変えていく必要があります。

(2) 実施事務所

日本事務局

(3) 事業のパートナー

東海地域のフェアトレード関係者 約150名

(4) 活動

1) 「東海フェアトレードフォーラム」の開催

東海地域のフェアトレード関係者80名が一堂に集い、地域のフェアトレード活性化を行う「東海フェアトレードフォーラム」を開催します。このフォーラムでは、南の生産者と東北の小規模生産者を招待することで、フェアトレードをめぐる意義や課題を洗い出し、フェアトレードが活性化する道を探ります。また、幅広くフェアトレードやその背景について市民に知ってもらうために東海各地域を周る「東海フェアトレードキャラバン」を行います。

2) 「東海フェアトレードポータルサイト」作成

東海地域のフェアトレードについての情報を掲載したポータルサイトを更に充実するとともに、広告収入でのサイト運営を目指します。

3) 「東海フェアトレードマップ」の作成

東海地域において、フェアトレード商品を扱う店舗を記した地図を作成することにより、フェアトレードに興味のある人たちに、フェアトレードショップの所在地を伝え、近くのショップへ足を運びやすくするお手伝いをします。これによって、東海地域のフェアトレードが今後更に活性化することを目指します。

F、NGO相談員事業

2012年の注目

- 職員間での相談への対応方法の共有化をはかります。
これによって、
相談を受ける体制の強化を行います。

(1) 事業背景

日本のNGOの組織強化や専門性の向上を目指し、外務省がNGO相談員制度を実施しています。アイキャンはその委嘱団体として、NGOの活動、設立、管理・運営など、市民やNGO関係者からの質問・照会に答えています。またNGO活動への市民の理解の促進のため、NGO関係のイベント等において相談業務や講演を行う「出張サービス」も行っています。

(2) 実施事務所

日本事務局

(3) 事業のパートナー

中部・北陸地域の市民 約1,200名

(4) 活動

1) 相談業務

「一人ひとりのできること(ICAN)」を大切に海外開発事業やフェアトレード、国際理解教育、多文化共生、スタディツアーの長年の実施経験より、中部・北陸地域のNGOや学生、教育機関や行政、企業(CSR)、グループ、個人が取り組む際の幅広い相談に乗ります。

2) 出張サービス


中部ブロックの管轄である三重、愛知、静岡、岐阜、長野、福井、石川、富山、新潟の9県に幅広く出張し、NGOに関する理解を浸透させていきます。今年は、富山や長野でのイベント等にも積極的に参加し、NGO活動が盛んではない地域において、NGOの理解浸透を促進していきます。またJICAの国内機関との連携を通じて、相談員業務の効率化をはかります。

3) 全国相談員会議の出席と開催

6月に東京で、12月に北海道で開催される全国相談員会議に出席し、他受託団体との連携を促進します。

G、インターン育成事業

2012年の注目

- 日本でのインターン募集を再開します。
これによって、
愛知県内の人材育成に寄与します。

(1) 事業背景

将来のNGOへの就職希望者等に対して、就業体験の機会が限られてきました。そこでアイキャンでは、一定期間の労働体験機会を提供し、人材育成を行っています。

(2) 実施事務所

日本事務局

(3) 事業のパートナー 若干名

(4) 活動

1) インターンの受け入れ

日本及フィリピンにて、インターンを受け入れます。

その他の活動に係る事業
・バザー等の実施